

|| 地域おこし協力隊 活動報告 ||

たかお新聞

6月号

2026.6.25

[制作]

鬼石総合支所
地域おこし
協力隊

3年の節目 空き家から農地へ 点と点を結ぶ 地域おこし協力隊

『空き家調査から生まれたご縁』
鬼石の空き家調査活動がきっかけで知り合いとなった空き家所有者さまから、すでに五箇所の休耕地の管理を託されておりま

す。
最初は、空き家をどのようにに活用するかという相談から始まりました。お話を重ねていく中で、家だけでなく、畑や山もどう守っていくかという課題にも向き合うようになりました。空き家は、ただの建物ではありません。そこには、家族の思い出があり、暮らしの文化があり、地域と繋がってきた長い歴史があります。そして、その周辺には、長年守られていた畑や山が密かに眠っています。

この三年間、空き家調査を通じて感じたことは、鬼石にはまだまだ活かせる資源があるということです。家も、畑も、人の想いも、放っておけば少しずつ荒れてしまいます。けれど、もう一度手を入れ、声をかけ、関わる人を増やしていけば、必ず次の世代へつなぐことができる。

今、私が託されている活動は、その大切な一歩だと信じています。

『もう一度、人が集まる地域・鬼石へ』

『休耕地を、もう一度人が集まる畑へ』
草だらけの畑が少しずつ元の姿に戻っていく景色を見ると、地域づくりも同じだと感じます。空き家も、休耕地も、地域の担い手不足も、一日で解決するものではありません。けれど、誰かが最初の一步を踏み出せば、そこに人が立ち寄り、知恵が集まり、少しずつ道が開けてくる。ほし農の2は、農作物を育てるだけでなく、人が集まり、語り合い、自然栽培の菌ちゃん野菜に囲まれながら暮らす世界を創作していきます。



鬼石振興課 職場メンバーとの記念写真

・編集後記・

『協力隊 二年延長 奇跡だね』

【編集担当】星野 貴男